

■平成27年度 第1回 室蘭市文化財審議会 議事録

日時 平成28年3月24日(木) 13:25~15:10

場所 室蘭市役所本庁舎 2階大会議室

出席者(委員) 井口利夫委員、堀井重克委員、上村勝義委員、新井山蘭牛委員、山田一夫委員、菊地富子委員、吉田幸恵委員 (7名全員出席)

(事務局) 山田進教育長、杉本久佐男部長、北川文雄主幹、松田宏介

0.開会

北川主幹 皆様本日はお忙しい中ありがとうございます。定刻よりやや早いですが、全員お集まりになりましたので、本日の文化財審議会、開会したいと存じます。私、生涯学習課担当主幹の北川でございます。よろしくお願ひします。議事につきましては、会長におすすぬえいただくことになっておりますが、委嘱後の初回ですので、議事1まで事務局より進めさせていただきます。まずはじめに、教育長より皆様にごあいさつ申し上げます。

山田教育長 (委員委嘱への謝辞。歴史的建造物、絵鞆円形校舎活用への審議をお願ひ)

1.議事(1) 正副会長の互選について

北川主幹 それでは、議事1、正副会長の互選になります。資料に委員の皆様の名簿と市文化財保護条例・規則抜粋をご用意しています。審議会には正副会長を置き、委員皆様の互選によるものとなっておりますが、いかがいたしまししょう。

新井山委員 審議する案件が継続している。引き続き井口会長、堀井副会長という形で議論をリードいただければよいのではと思う。

北川主幹 ただいま新井山委員より、継続して「会長に井口委員、副会長に堀井委員」というご発言がありましたが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

北川主幹 それでは、会長に井口委員、副会長に堀井委員ということで決定いたします。それぞれ、一言ごあいさついただけますか。

井口会長 僭越ながら引き続き会長を努めさせていただく。もう少しで後期高齢者の身、「老害」と言われぬよう気をつけながら、皆様と共に頑張りたい。

堀井副会長 引き続き井口会長のもと務めさせていただく。よろしくお願ひします。

北川主幹 それでは、以後の議事については、井口会長にお任せいたします。

2、議事(2) 市内の歴史的建造物について

井口会長 それでは議事(2)に進みます。まずは事務局より説明を。

松田 (事務局説明、経過、ストーリー構成やその偏り、建造物評価試案を説明)

井口会長 前回審議を受けて本市の歩みを示すストーリー構成を整理し提示いただいた。このことは、歴史的建造物以外の審議においても大変重要な整理と思う。その中でいくつか付け加えるなら、事務局からのストーリー説明の中では、近世の江戸幕府や松前藩、南部藩による統治や会所経営についての部分が抜けていた。これは市史にも近世の記述が不十分であることにもよるが、追加検討されたい。また、物件の整理として時期や分野別で示してゆくと、記念物、特に史跡にあたるものが近世から明治以後も抜け落ち空白になっている。これは室蘭が地域の歴史を示すということに冷淡であった結果であり、今後積極的に付け加える必要があるだろう。

建造物の保護において、民間所有のものについて難しい面が多いのは理解できる。ただ前回も申し上げたが、市所有物件も対応しないのでは市の姿勢が問われるところ。その点で、旧絵鞆小の円形校舎について、一棟は使う形だが、二棟そろって意味を持つもの。耐震性がないもう一棟(体育館棟)についての措置はどうなのか。

山田教育長 教室棟については現在庁舎として活用し、その2階部分に遺跡出土資料の展示スペースとして活用してゆくところだが、体育館棟については耐震性がない。耐震ブレースによる補強などは、歴史的な建造物の価値を損なうので適当でないと考える。また「耐震性がないから壊す」というのも、敷地に遺跡の広がりがあることが確かめられており、しがたいところで、当面は解体等は考えていない。

今後どうするのかについては、二棟を対にした対応を考えたいところで、28年度内に方向性を審議会にもお諮りし進めて参りたいが、縄文をはじめとする市内の遺跡出土資料について、円形校舎に集約し、保存そして公開をする施設として整備を検討しているところだ。

井口会長 民間所有物件については、保存等が難しく壊されてしまう事態は残念ながら理解できる。ただ、「歴史的な物件の保存を」と求める行政的な立場では、まず市所有の物件について努力する姿勢を示す必要がある。この点でよく検討していただきたい。

山田教育長 こちらよりご意見をいただきたいのは、通常の矩形校舎(S52築)について。こちら耐震性がまずなく、今後の管理を考えると解体も想定される。費用も要するのでどの段階かは今後の課題であるが。

井口会長 円形校舎については、石狩市や江別市にもある。ただし室蘭の方がデザイン的な面でも非常に特異性があり、私見だが大変良い物件である。

耐震性の課題はわかるが、一方でついさきほどまで学校施設として利用していた建物が急には入れなくなるのは市民感情としては理解され難いだろう。

新井山委員 建物は、人が住んで利用されていないと、痛みが早くなるという。美術品の収蔵施設などの利用もできないだろうか。

山田教育長 円形校舎については、適応指導教室・教育研究所などが入居しており稼働している。ただ耐震性がない体育館棟は閉鎖しており、こちらを出土遺物などの収蔵スペースとして今後検討したい。また矩形校舎については、やはり将来的には解体で想定している。

吉田委員 小樽にも二棟式の円形校舎がある。こちらは、人けのないという立地上の問題もあるが、閉鎖後に投石などがなされ管理上の課題になっているという。この点で未利用の状態で長く置くのは望ましくないだろう。

白鳥大橋のたもとという非常に立地もよい場所にあたり、市での活用でなければ民間利用も含め検討してもらいたい。

井口会長 科学館・図書館の建替の話もあり、この点で科学館などはあちらに移したらとも思うが。

山田教育長 民間利用についても、やはり耐震がないのが課題。耐震改修も含めて利用を希望する相手先でされる気があるのか、という点で難しいさがある。

また、円形校舎は面積的にも各階 500 m²程度で、規模含めて中々「使いやすい建物」とは言えないところ。

井口会長 では、建造物を位置づけるストーリーについての議論に移る。

これまで市で「史跡」指定をしてこなかった点は、やはり指摘しなくてはならない。これは地域のあゆみを市（行政側）がどれほど大切にしていなかったのかを端的に示している。

また、事務局案の中で、街並みの発展についての説明で「札幌本道」への言及が薄い。さらに、近世における言及も不十分。市史の記載が不備なことに起因するが、江戸幕府また松前藩などによって領有され、エトモ・モロランの会所が設けられ変遷してきたことはより詳しく説明すべき。これらは修正点として指摘しておく。

吉田委員 一覧の 9 番、長谷川貿易ビルについては、近日中に解体する形でご所有者から情報をいただいている。

井口会長 この件については、市には連絡はきているのか。

松田 具体的なスケジュールについては直接お聞きしていないが、解体が進められるということで、吉田委員が代表される蘭歴建見会にあわせ建物内部などを以前拝見させていただいている。

山田教育長 長谷川貿易ビルについては、数年前に市側にもご相談をいただいたことがある。また、この審議会でも一度指定等の議論にのせ、その折に「見送り」

として決着をつけたところ。そのような経過の中で至った事態。

井口会長 長谷川貿易ビルについては残念な結果である。今後、まずは絵鞆小円形校舎を主に議論を進めていきましょう。

3、議事(3) 絵鞆貝塚の調査について

井口会長 では、先ほどの議論とも関係しますが、議事(3)、今年度の絵鞆貝塚の発掘調査について、事務局よりお願いします。

松田 (事務局説明：調査成果・報告書、市議会質疑、今後の整備など説明)

井口会長 小規模な調査とのことだが、人骨出土など大きな成果があがり、報道等もなされたところ。この点についての認識は。

松田 基本的には、遺跡の内容の豊かさが改めて示されたもの。

井口会長 今回市議会でも多くの議論がなされた。民俗資料館と円形校舎の仕分けの考え方についても今後この審議会でも議論する形になるだろう。なにより資料館は整備してからずいぶん経つ。バックヤードなども不十分で、展示もそのまま。この地域について、新たな知見が資料館の活動によってもたらされるとは、失礼だが思えない。この点を十分踏まえ、絵鞆の整備においては、ハードはもとより人的な措置を含め考えるべきである。

山田教育長 管理運営については、ご指摘の通り今後精査を要する課題と認識。美術館・文学館については、科学館のように指定管理を行ってないが、市民団体の支えがある。絵鞆、また資料館についても、市が整備したわけだが、今後どのような在り方がよいのか議論を進め、またこの場でもご審議いただきたい。

井口会長 しっかりとした博物館活動において、安易な指定管理は難しいだろう。道立博物館においても、適切な「資料保管」はもとより、館の活動の根幹になる「研究活動」が損なわれる懸念から、様々な反対があり、指定管理施設とすることは見送られたところ。現在の資料館のようなあり方も同様にダメ。研究活動の確保・充実を十分考慮することが必要。

菊地委員 民俗資料館の入館者は、どのぐらいですか。よく「見に行きづらい」という声を周囲からきくのだが。

松田 年間約4000名前後となっています。

井口会長 市として、子ども向けの事業もよいが、大人を対象とした取り組みを継続して進めないと、地域の歴史や文化に対する理解や関心が向上しない。市民団体でも活動をしているが、講師のレベルなど十分とは到底言えない。やはり行政が質の確保を含め主導すべきで、責任は大きい。

上村委員 今回出土した人骨は、埋葬とあるが墓なのか。今後どのように保存するのか。

松田 一体分がよく遺存しており、掘り込みは確認できなかったが何らかの遺体安

置処理がなされていたと認識している。また、今後については、管理の問題もあり、市で保管するか、大学研究機関にお願いするか検討したい。

井口委員 市議会での質疑も多かったとのこと。特に「縄文の里」はよい指摘。出たものだけを室内に展示するのではなく、遺跡の存在が実感できるような整備について、アイデアを出してもらいたい。

4、議事(4) 遺跡出土資料及び市指定文化財の保存処理について

井口会長 では、議事(4)について、事務局よりお願いします。

松田 (事務局説明：出土鉄製品等保存処理、具足修復、絵図表具直し説明)
せっかくの機会なので、すべてではないが実物をご覧いただきたい。
(出土鉄製品、絵図2点を実見、質疑応答)

堀井委員 これらは今後どうなるのか

松田 絵図2点は図書館で保管。鉄製品などは資料館で保管し、展示活用をする。

5、その他、閉会

井口会長 それでは、「その他」の事項ですが、何かございますか。

松田 (事務手続き：マイナンバーの関係書類提出のお願い)

井口会長 その他、特段ございませんか。

では、この後現地視察が控えていますので、よろしければこれで本日の審議会を閉会します。

(一同) お疲れ様でした。

(現地視察)

公用車にて絵鞆庁舎・円形校舎棟を現地視察(教育長・部長除く)。

体育館棟と教室棟の分断について、不適切な措置と意見。